

# 町医者だより

平成21年7月・8月合併号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤッポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器科

## 喘息の原因は

今回はここ4-5年喘息の原因として注目されて特殊な免疫細胞（T細胞）について述べたいと思います。

### 喘息の分類の仕方に深い意味がある

私が医者になった25年以上前、喘息は「外因性」喘息と「内因性」喘息に分類されていました。「外因性」とは、ハウスダスト、ダニなどのアレルゲンを吸入することで起こる喘息で、「内因性」とはアレルゲンがはっきりしない喘息を指していました。これとは別の分類でアレルギーを証明できる「アトピー型」喘息とウイルスや細菌感染を契機に喘息発作が出現する「感染型（非アトピー型）」喘息がありました。つまり先人たちはその詳しいメカニズムは分からないが、喘息には発症様式が異なる2つのグループがあることに気がついていたのです。

### 喘息の2つのグループの間で臨床経過・治療法にまったく差がない

最近の内因性・外因性喘息という言葉は使用されず、アトピー型喘息と非アトピー型喘息という分類を使うことが多いのですが、アトピー型をダニ、ハウスダスト、花粉などに対するアレルギーを採血やパッチテストなどで証明されるものと定義すると成人の喘息の40~60%といわれています。簡単に言うとアトピー型と非アトピー型はそれぞれ50%ずつとなります。この2つのグループの詳細な比較がいくつか発表されていますが、2つにグループ分けしても、驚くことに喘息の重症度、吸入ステロイド治療に対する反応性などにまったく差がありません。これは何を意味するのか？答えは一つです。すなわち、喘息の刺激のスイッチは2つのグループで異なるが、途中からまったく同じ手順（機序）で喘息の本体である慢性的な気道の炎症が起こっているということです。

### 不変的ナチュラル・キラーT細胞 (invariant natural killer T cell) が注目されている

検索サイト・グーグルでも適切な日本語訳が出てこないのですが、特殊なリンパ球（Tリンパ球）であるinvariant natural killer T cellが注目されています。この細胞はアトピー型喘息の刺激物質であるアレルゲンでもウイルスや細菌感染など非アトピー型喘息の刺激物質でも活性化されることが知られています。このリンパ球が分泌するIL(アイエル) -13という炎症物質が気管支粘膜上皮やその下層にある平滑筋に炎症を引き起こします。つまり刺激の種類に関係なく、この特殊細胞が2つの喘息グループに共通する炎症を引き起こしています。

### 喘息治療は抗免疫療法に向かっています

吸入ステロイドが喘息治療に導入され信頼性の高い治療効果をもたらしたことが喘息=免疫機能異常という認識をいっそう深めることになりました。というのもステロイド剤そのものが免疫抑制剤だからです。今回述べましたナチュラルT細胞が本当に喘息の中心人物かまだ結論がでていませんが、今後もこの分野での犯人探しがますます盛んになると思われます。